

自然博物館
ニュース

A·MUSEUM

vol.28
〔2001.6.25〕



ア・ミュージアム

ミュージアムパーク
茨城県自然博物館



クロコノマチョウ：1994年11月19日、つくば市にて今井初太郎氏撮影

分布を広げる？昆虫

茨城県で数例の報告しかなかったクロコノマチョウは、1994年につくば市遠東の「ゆかりの森昆虫館」等で観察されてから、県内で確実に分布域を拡大しています。ムラサキツバメは、2000年に茨城県南部を中心に採集され、多くの生息痕も確認されました。また、クマゼミは、鳴き声を確認したなどの報告が時折見られます。これら南方系の種は、定着するのでしょうか？

ブタクサハムシは、北アメリカ大陸から日本に侵入したという外来昆虫です。1996年に東京湾岸で発見されてから急速に分布域を拡大しています。茨城県でも1997年にはじめて観察され、今ではいたるところで見ることができます。外来昆虫は、どのような立ち居振る舞いをするのでしょうか？

(資料課：久松 正樹)



ブタクサハムシ：1998年7月29日、
千代田町にて久松正樹撮影

見て聞いて 觸れて わくわく ミュージアムパーク

第22回企画展
S A T O Y A M A
 人と自然のコミュニティースペース「里山」—
 SATOYAMA - Dialogue with Nature of Diversity -



炭焼き



カブトムシ



キンラン



里山の風景（岩井市）

会期	平成13年7月7日（土）～9月24日（月）
開館時間	午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休館日	毎週月曜日 (ただし、9月24日（月）は開館し、翌日は休館します)
入館料	大人 720円（580円） 高・大学生 440円（300円） 小・中学生 140円（70円）
*	（ ）内は20名以上の団体料金です。
*	未就学児、65歳以上の方、障害者手帳を持参の方は入館無料です。
*	この料金には、常設展・野外施設入場料が含まれています。
記念行事	<ul style="list-style-type: none"> 記念講座 「人と自然のコミュニティースペース～里山～」 7月15日（日）午後1時～午後3時 記念シンポジウム 「森は海・川を元気にする」 8月5日（日）午後1時～午後3時 *記念講座・シンポジウムは事前に申し込み下さい。（先着順） 本書発行時に定員をこえ、又はしめきっているものがある場合にはご了承下さい。 自然観察会 「里山を歩こう」 （土浦市・宍塙大池） 9月15日（土）午前9時30分～午後12時30分 *実施日の2週間前までにお申し込みください。 (応募多数の場合には抽選となります。)

みなさん、「里山」という言葉を聞いたことがありますか。「里山」は雑木林や谷津田を中心とした人とのかかわりが深い自然環境を意味します。とりわけ、雑木林は、薪や炭、田畠への肥料といった形で人びとの生活を支えてきた林で、かつてはごくあたりまえにみられた、日本人にとっての原風景でした。しかし、石油や化学肥料が普及した現在では、里山の大半は開発などによって失われるか、誰にも手入れされることなく荒れはてるばかりです。果たしてそれでよいのでしょうか？

里山は、多種多様な生物が生きるたいへん豊かな自然です。また、同時に、人びとがふれることのできる身近な自然でもあり、人と自然が共生していくための魅力的なフィールド“コミュニティースペース”です。ここでは、自然と一緒にすることで、現代人がつい忘れてしまいかちな、「人も自然の一部である」ことや「人は自然によって生かされている」ことを実感できるはずです。私たちは、このかけがえのない自然財産を後世に残し、伝えていくことを提案します。

今回の企画展では、自然の宝庫とよばれるにふさわしい豊かな自然や、様々な人とのかかわりなど、その魅力を存分に紹介します。そして、21世紀の里山はどうあるべきか、里山に見いだされた新たな価値や里山の存在意義について、みなさんとともに考えていきたいと思います。

（資料課：廣瀬孝久）

主な展示内容

○里山とは

里山ってどんなところ？／里山と農業／里山のめぐみ

○里山の生きものたち

－里山は自然の宝庫－

雑木林の生きもの／田んぼの生きもの／いつのまにか里山の人

○里山は、いま…

これでいいのか、雑木林！／最近見られなくなった生きものたち

○里山とともに

里山を保全する／里山の新しい価値とは？／里山で自然体験



雑木林で遊ぶ（関城町）

研究ノート●波崎町にマス・ストランディングしたカズハゴンドウ

2001年2月11日早朝、大きな風力発電用風車で知られる、鹿島郡波崎町のシーサイドパーク付近の海岸約4kmにわたって、53頭(頭数は、波崎町役場による)のカズハゴンドウがマス・ストランディング(集団漂着)しました。サーファー、地域住民や連絡を受けた大洗水族館スタッフ、消防署員、警察署員らによって、懸命の救助活動が行われました。生存している3頭を大洗水族館、1頭を犬吠崎マリンパークで保護し、各々のトレーニングプールに搬入しました。また、海岸では20数頭を放流し、死亡した25頭は、現地で埋葬処分しました。大洗水族館に搬入したうちの1頭は、輸送中に死亡。他の2頭も強制給餌や治療などの手当での甲斐なく、2月16日、19日に死亡、犬吠崎マリンパークに搬入した1頭も2月28日に死亡してしまいました。



サーファーや消防署員による救助活動

茨城県内のマス・ストランディング

以前にも1990年2月19日に鹿嶋市の明石海岸にカズハゴンドウ30頭のマス・ストランディング記録が残っています。鯨類のストランディングと海水温や餌となる生物の深い関係が考えられます。が、当日は、黒潮系暖水が沿岸に向かって流れ、昨年より海水温が約2°C高い

状態にありました。そして、茨城県沿岸では、マイワシ、カタクチイワシ、サバ、ヤリイカが豊漁でした。カズハゴンドウの群は、暖流に乗って餌となる生物を追い、茨城県沿岸に来たことが考えられます。

カズハゴンドウ

カズハゴンドウは、体長2.5m程度の熱帯・亜熱帯に生息するマイルカ科のハクジラ類です。日本近海では、九州以南に分布していますが、時として北の海域にも来ることがあります。群の数は多く、ときには500頭以上にも達します。

大洗港に迷入

2月14日午後、波崎町にマス・ストランディングしたものと同一群と思われる15頭のカズハゴンドウが、大洗港に迷入しました。直ちに関係者により船で港外に追出されました。港内ではのんびり泳いでいましたが、港外に出ると一目散に沖に向かって泳いで行きました。



大洗港に迷入したカズハゴンドウの群

解剖調査

死亡した5頭の解剖調査をした結果、次のことがわかりました。

- ・胃には多数の寄生虫(線虫)が見られました。
- ・イカ類の顎板(からすとんび)や魚類の耳石が入っていました。
- ・肺には海水が入っており、これによって呼吸困難となり死亡したと考えられます。

・頭蓋から寄生虫(吸虫、線虫)が発見されていますが、これがストランディングの原因かどうかは不明です。



大洗水族館に保護された2頭のカズハゴンドウ



大洗水族館での計測状況(2月12日)

茨城県での調査体制

茨城県では、大洗水族館、常磐大学、水産庁水産工学研究所と自然博物館が中心となって、ストランディング個体の救助や死亡個体の生物学的、解剖学的、病理学的研究などを目的としたストランディングネットワークができます。ストランディングの情報が寄せられると各研究団体、研究者に連絡し、貴重な研究材料の相互利用を図ることとなります。これまでにも茨城県にストランディングした個体から採取した資料は、日本国内の研究機関、研究者に配付され、鯨類の生時の状態や環境、系統群・血縁関係、栄養環境などの研究に役立っています。

(企画課：国府田良樹)

小さな発見—ミュージアムコンパニオン●ミュージアムパークの住人たち

この博物館の野外施設には、たくさん生き物たちが一緒に生きています。しかし、そのほとんどは‘気配はすれども姿は見えず’です。ここでは、私が偶然出会った博物館の住人たちを、ちょっとだけ紹介したいと思います。

昆虫の森では、キノコの仲間のタマキクラゲを見つけました。枯れ枝にレーズンがついているようですが、食べられるそうです。それから六月頃、セスジズズメガの幼虫が、一生懸命道を横断中だっ

たのを見かけました。派手な色と歩き方がユニークです。ドングリの森ではカナヘビが日光浴をしています。晴れている日ならいつでもいるようです。梅雨の時期、本館中庭に主のような大きなカエルが突然現れて、びっくり！後でアズマヒキガエルだと、わかりました。天気の日には、菅生沼の杭の上でカワウが羽を広げて日光浴。姿はちょっとおどけた様子でしたが、とても気持ちよさそうでした。

ミュージアムパークの住人たちには、あ

らゆる所に出没します。もし出会えたときは、その偶然に感謝し思いっきり楽しんで下さい。私達もそのお手伝いが出来ることを、楽しみにしております。

(ミュージアムコンパニオン：大原京子)



展示品紹介●生まれ変わった第1展示室—天文シミュレーター—



美しいカラー写真で埋め尽くされた銀河コーナー

最近になって博物館にお越しになった皆さん、第1展示室「進化する宇宙」が少しずつ新しくなっていることにお気づきになりましたか？今年になって「銀河」コーナーの写真を、すばる望遠鏡やハッブル望遠鏡による最新版のカラー写真に入れ替えました。また「惑星モニター」コーナーでは、コンピューターを更新し、美しい画像を用いてさまざまな情報をお伝えできるようになりました。

大変わかりやすくしかも楽しく宇宙のことが調べられるようになった「惑星モニター」改め「天文シミュレーター」についてご紹介しましょう。展示室内の3つのブースには、それぞれ異なるプログラムが仕込まれています。

一番左は、「太陽系を調べよう」です。近年の惑星探査機などの活躍により、太陽系において新しい事実がたくさん判明しました。このブースでは、太陽や惑星はもちろんのこと、彗星のふるさとや日食・月食などについて、世界中から集めた写真やCGをふんだんに用い、わかりやすく解説しています。

まん中は、「天文Q&A」です。難易度の異なる3つのコースから、問題が出



天文シミュレーターのコーナー

されます。ご案内役は、第2展示室の恐竜Q&Aや第3展示室の森のQ&Aでおなじみのマンモスおじさんです。星座のお話やさまざまな天体、宇宙人にいたるまで、いろんなジャンルから問題が出されます。3コースあわせて全部で41問ありますから、全問正解するまでチャレンジしてみてください。

そして一番左は、「星空シミュレーション」です。毎日夜9時に見られる星座や惑星、月の位置についての解説が行われます。また、世界中のさまざまな場所で見られるいろいろな日時の星空についても知ることができます。たとえば、皆さんが生まれた日の夜空に輝いていた星々について調べたり、海外旅行に行った先で見ることができる星座をさがすこ



「太陽系を調べよう」のブース

とも可能です。

これらの展示ブースには、もう一つのセールスポイントがあります。それは、少しだけですがユニバーサルデザインであるということです。隕石以外に実物を手にすることが難しい天文分野の展示は、映像や写真に頼らざるを得ません。しかし、これまでの多くの映像展示は健常な人を対象につくられており、視覚や聴覚に障害がある方にとってはなじみにくいものでした。今回導入したシステムは、画面に出てくる情報と同様の内容を、音声によってもお伝えしています。ですから、一緒においでになった方に少しだけサポートをしていただければ、誰でも一緒になって、宇宙の姿について楽しむことができるのです。

21世紀は「宇宙時代」ともいわれます。これらの展示をとおして、少しでも宇宙への親近感を深めていただければ幸いです。

今年は、「太陽と地球・月・金星」コーナーを、新しいものにする予定です。"星のおじさん"（高橋）が撮影した日食や月食の動画をベースに、さらにわかりやすい展示になります。ご期待下さい。

（資料課：高橋淳）



「星空シミュレーション」のモニター画面

野外だより●トンボの池周辺で子ガメ発見！—ミドリガメ—

このところ、野外のトンボの池周辺では、子ガメの発見が相次いでいます。4月12日と30日には、甲長26mm前後のミシシッピアカミミガメが、5月5日にも同じくらいの大きさのクサガメが発見されています。どの個体も歩いているところを職員や来館者が偶然見つけました。おそらく、ふ化したばかりの子ガメがトンボの池を目指して移動している途中だったのでしょう。前者のカメは北ア

メリカ原産で、その子どもは「ミドリガメ」と呼ばれています。ペットとして飼われていたものが野生化し、近年、日本各地の淡水域で繁殖するようになりました。かつて、カメといえばイシガメかクサガメでした。今後は、ミシシッピアカミミガメもアメリカザリガニのように日本の自然にとけ込み、違和感を感じさせない動物となってしまうのでしょうか。

（資料課：池澤広美）



4月12日に発見されたミドリガメ
(撮影者：黒澤紗智子／協力者：山本研)

歳時記●梅 雨

「青葉、入梅、梅雨、長雨の候、初夏の風に肌も汗ばむころ…」6月の時候の挨拶は、さまざまです。それは、6月は梅雨の季節だからです。昨年の関東地方の梅雨入りは、6月9日でした。さて、どうして梅雨という時期があるのでしょうか。

梅雨期は、北方のオホーツク海高気圧と南方の太平洋高気圧とが互いに勢力を強めながら合うために、日本の南岸沿いに停滞前線が生じます。これを梅雨前線といいます。双方の高気圧の勢力がほぼつり合っているために、梅雨前線は日本付近を北上したり南下するだけで離れず、長雨が続くのです。

梅雨期の末期になると、太平洋高気圧の勢力が強くなり、台風が北上するものも現れ、豪雨になるときがあります。

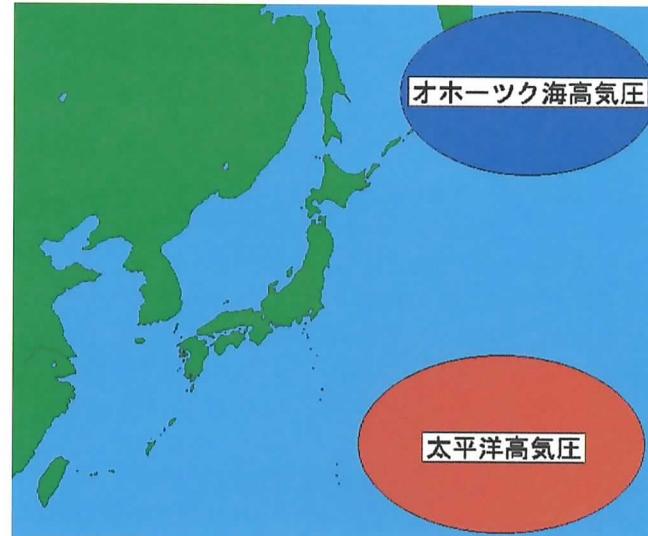
しかし、7月中旬ごろになると、太平洋高気圧が勢力をさらに強めるため、梅雨前線を北方へ押し上げ、梅雨が明けます。そして、日本は太平洋高気圧におお

われて夏となるのです。関東地方の梅雨明けは、7月18日（平年）ごろです。

さて、この2つの高気圧は、勢力が拮抗しないときがあります。太平洋高気圧が強いと梅雨前線が北上してしまい、から梅雨となります。また、オホーツク海

高気圧が強いと前線を南方に押し下げてしまい、冷夏となります。どちらにしても農作物へ悪影響を与えてします。今年は、どんな梅雨で、いつ明けるのでしょうか。天気図に注目してみてください。

(資料課：宮崎淳司)



梅雨前線をもたらす2つの高気圧

収蔵品紹介●茨城県自然博物館のタンチョウ *Grus japonensis* はどこから来たの？

写真の2体のタンチョウのはく製は、第21回企画展「とぶ・飛び・翔ぶ」に展示されていたものです。いずれも、茨城県自然博物館で所蔵しているのですが、このはく製がどのような経緯で当館にやってきたかを簡単に紹介します。

タンチョウのふるさとは釧路

タンチョウは、日本では北海道の釧路周辺にのみ生息する、ツル科の鳥です。このはく製のタンチョウも、もちろん北海道に野生で生息していたものです。

飛翔型のタンチョウは、1998年12月25日に阿寒郡鶴居村下雪裡の道路脇で動けなくなっているのを発見されました。釧路支庁を経由し、釧路市動物園に収容されたときには残念ながら死亡していました。左脚の線状の傷、脳内出血、内臓の出血などがあり、飛翔中に電線に接触した突発的な事故死であったと推定されています。

立位型のものは1998年2月27日、阿寒郡鶴居村中雪裡の民家で、弱っているところを発見されました。役場の職員の手で保護され、動物園へ搬送されました。首の中央にある傷が気管にも達し

ており、処置のかいなくその日のうちに死亡してしまいました。気管支や肺が細菌感染しており、栄養状態も悪く、衰弱状態で何らかの事故にあったことがわかれました。

いずれの個体も解剖、検査の後、資料として冷凍保存されていました。

冷凍で茨城へ

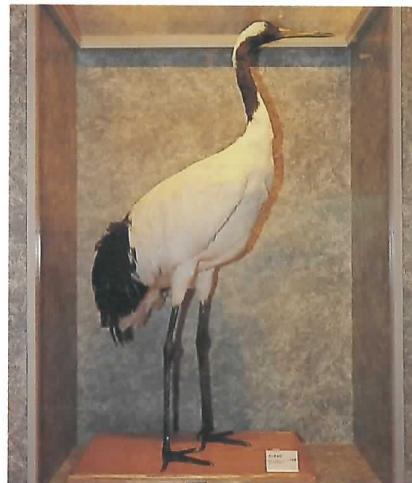
1999年8月に釧路に赴き、動物園の担当の方に資料の譲り受けの可能性をお聞きし、9月に館長名で正式な資料譲り受けの依頼文を発送しました。様々な手続きを経て、2000年3月、4月に相次いで冷凍資料の形で釧路市動物園より茨城県自然博物館に寄贈されました。博物館で受け入れの後、はく製加工の処理がされ、現在のようなはく製資料となった



のです。

第21回企画展にて、初めて公開されたこの2体のはく製ですが、企画展終了後、一旦収蔵庫へ収蔵されています。この後、企画展や常設展示の展示替え等で、再び公開されるまで、貴重な資料として厳重に保管されることになります。限られた希少な生物資料を、良好な状態で後世に遺すこととも、博物館の重要な役目の一つかなっています。

(教育課：石塚 剛)



タンチョウはく製
左：飛翔型 右：立位型

館職員レポート●展示評価の役割とこれから
高野 信也 (教育課・植物研究室)

皆さん「評価」という言葉を聞いて何を連想されるでしょうか?大きな氷の固まり?それは「氷河」です。中国の川?それは「黄河」ですね。冗談はともかく、何となくいやな感じがする方が多いのではないかでしょうか?特に学生の皆さんにはテストや成績などという単語と同じぐらいネガティブな感情がおきるかもしれませんね。

残念ながら私の博物館の仕事の一つがその「評価」に関わっているのです。しかも、これからその「評価」の部分は、茨城県自然博物館にとって、重要性を増してくるような予感さえしています。

皆さんのなかには、博物館はいつも同じものが置いてあって、一度行ったら、

しばらく行く必要がない所だと考えておられる方もいらっしゃるかと思います。ところが、事実は正反対で、博物館の中はまるで生き物の様に日々変化しています。そして私たちは、その改良や変化をお客様にとってどれだけ効果的かを知るための方法をいくつか試しています。

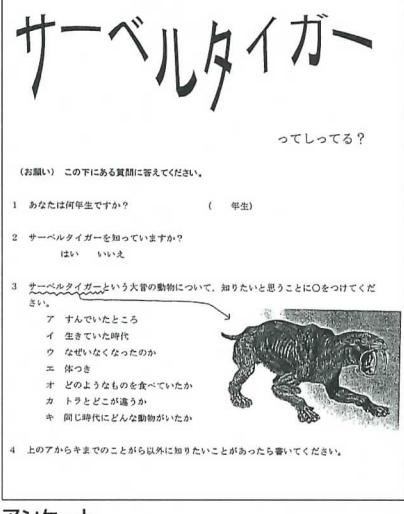
それらは一般に展示評価法と呼ばれているのですが、出来上がった展示物の評価をするばかりではなく、新しい展示物を作る前にお客様の意見を集めたり、試作品を試していただくなどの、実際の展示物を作り上げるまでの過程も含まれています。

私たちが現在試している方法は、アメリカのミンダ・ボランさんらを中心になって進めている、3段階の評価法です(Front-end / Formative / Summative evaluations)。昨年度は、本館の講座室を使って行われた、サーベルタイガー展でFront-end法とFormative法とを試しました。

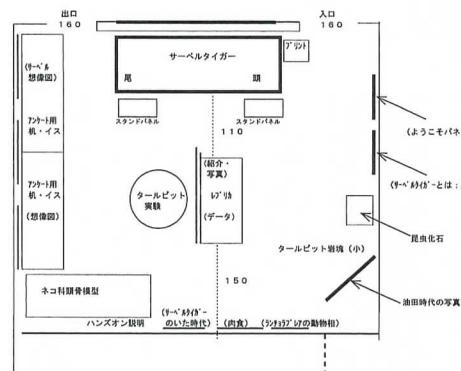
具体的には、小学生の皆さんを対象として、サーベルタイガーについて、どのくらいの方が知っているのか、何を知りたいのかについてアンケートをとり、それをもとに、短期用の展示を作っていました。さらに、その展示が本当に小学生の皆さんに理解されているかをインタビューやアンケートで調べ、他の展示室と比較するために滞留時間等の調査を実施したりしました。

その結果、その時点のサーベルタイガー展示の効果や問題点が明らかになり、今後、他の展示にそれらを生かしていく方向で進んでいます。(詳しい手順・結果等については、平成13年度研究紀要に発表予定です。)

将来的には、担当者の思いを生かしながら、お客様本意の展示をするために、展示評価の方法もこの茨城県自然博物館のシステムにあったものを作りたいければと思っています。



サーベルタイガー展示(図面)



教育課員としての1コマ
(黄色いジャンパーが私です)

コラム by director NAKAGAWA ○パンダの婚入り

この4月、上野動物園の雄パンダ「リンリン」がメキシコの動物園から3ヶ月振りに帰ってきました。メキシコの動物園ではメスのみ3頭が飼われていましたので、春の繁殖期間限定で契約結婚をしていたのです。

残念ながら自然交配には成功しなかつたようですが、人工授精は順調にいったということですので秋には朗報が聞かれるとかもしれません。ところで、今、パンダやトキのような絶滅に瀕している動物

を飼育管理下で増殖させようという計画が国際的に多くなっており、これを「生息地外繁殖」と呼んでいます。

生息地での保護増殖と平行して人間の管理下で保護増殖することも重要視されてきたからです。これまで、動物園や水族館に蓄積してきた膨大な知識経験を活かし、生物の多様性を護る活動に参加することが益々求められるでしょう。リンリンはその先駆けと言ってよいのではないでしょうか。



トピックス◎3～5月

「日本の鷹狩り」を開催○3月20日(火)

第21回企画展「とぶ・飛ぶ・翔ぶ」を記念して、「日本の鷹狩り」と題した記念イベントを開催しました。当日は、日本放鷹協会諏訪流第17代鷹師の田籠善次郎氏、鷹匠の室伏三喜男氏らを招き、1600年以上の歴史と伝統を誇る「日本の鷹狩り」の紹介や高い飛翔力をもつ猛禽類の本能や調教方法などについての講演会と、野外施設での鷹匠による放鷹術の実演が行われました。実演では、オオタカなどが鷹匠の拳（こぶし）から拳へ移り替わる「振り替え」などが披露され、目の前を飛び鷹の姿と鷹匠の高い技術に魅せられた1日でした。



放鷹術の実演



博物館とっておき話

矢島稔氏の昆虫講演会を開催○5月6日(日)

この日はラジオでおなじみの、群馬県立昆虫の森園長矢島稔氏を招き、「地球ではじめて飛んだのは昆虫！」と題して講演会が行われました。昆虫の飛ぶしくみについて、スライドや手作りの模型を用いたり、ユーモアを交えながらのわかりやすい話は大好評でした。

また、矢島先生と当館学芸員とのトータクショードでは、昆虫と鳥やほ乳類の飛ぶしくみの違いなどの興味深い話を聞くことができ、最後の質問コーナーでは、将来の昆虫博士を目指す参加者からの、昆虫についての様々な質問に丁寧に回答していただきました。



模型を使って説明する矢島先生

水系だより

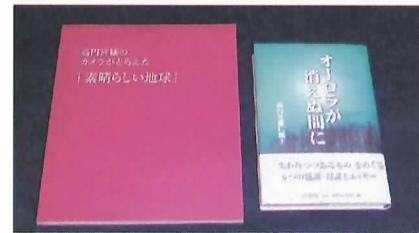
今年度、博物館水系スタッフでは、第三展示室水槽前にて、月2回程度（不定期）のレクチャーをしています。その名も「水系ウォッチング」。このレクチャーは展示生物を中心に生き物のすばらしさや面白さを、飼育係員の体験エピソードを交えながら進めています。水系ウォッチングの特徴は、飼育係員自作の標本を使ったり、時には実物を手に取った

りもします。このように毎回趣向を凝らしてお話ししています。今までの題目は、サケの成長と飼育、ザリガニのすべて、魚の歯、イトヨの繁殖行動、磯の生物などについてを行いました。これからも旬な生き物に焦点をあてて、どんな人でも面白く興味が湧くように努めていく予定です。

（大洗水族館：山本 研）

高円宮様から著書ご寄贈

このほど、高円宮憲仁親王殿下から対談エッセイ集『オーロラが消えぬ間に』と、自然の大切さ、地球のすばらしさをご自身のカメラでとらえられた写真集『素晴らしい地球』をご寄贈いただきました。



ご寄贈いただいた著書



飼育係員自作標本

インフォメーション (7~9月の行事)

自然観察会 (各40名)

8月26日(日)
『ナウマンゾウをさがそう(つくば市)』

9月15日(土)
『里山を歩こう(土浦市)』

9月30日(日)
『きのこの観察(御前山)』

*現地集合。

自然講座 (定員: 300名)

7月15日(日) 13:00~15:00
『人と自然のコミュニケーションスペース~里山~』

8月5日(日) 13:00~15:00
里山シンポ『森は海・川を元気にする』
(対象: 小学生高学年以上)

自然教室 (定員: 40名)

- 7月21日(土) 17:00~20:00
『ホタルが生きる自然環境を見よう』
- 7月28日(土) ~29日(日) 午後~翌朝
『オールナイト昆虫観察』
(水海道あすなろの里宿泊)

自然なんでも相談

自然についてわからないこと、ふしぎだな、と思っていることなど、なんでも気軽にご相談ください。

相談方法 博物館あてに質問を郵送するか、直接ご来館ください。

●8月11日(土) ~12日(日) 午後~翌朝

『恐竜展示室の一夜』

(博物館展示室宿泊)

9月8日(土) 10:00~12:00

『ダンゴムシと遊ぼう』

(対象: 小学生以上、ただし●印は保護者同伴)

大人＆子どもフィールド・ガイド

(定員: 大人30名 子ども30名)

8月19日(日) 10:00~14:00

『里川の動物たち(里美村)』

[観察会等への申込方法]

2週間前までに電話で申し込んで下さい。なお、希望者多数の場合は、抽選を行います(講座は先着順)。

また、本号発行時には受付を終了しているものもあります。予めご了承ください。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館
TEL 0297-38-0927 (受付直通)

相談日 7月21日(土)

8月18日(土)

9月9日(日)

場所 ディスカバリー・プレイス観察コーナー

時間 13:30~15:00

サンデーサイエンス【楽しい体験教室】

月ごとにいろいろなテーマで、毎週日曜日にディスカバリープレイス内のスタジルームで実施しています。

観察や実験、工作などの体験をとおして、楽しみながら自然への関心を深める機会です。

テーマ

7月『星座早見盤をつくろう』
8月『小さな虫を大きくつくろう』
9月『野草で紙をつくろう』

時間 午前の部 10:30~12:00

午後の部 14:00~15:30

わくわくディスカバリー

毎月第4土曜日に開催する親子向けの参加体験型イベントです。

7月『貝殻風鈴をつくろう』

8月『手作り粘土で動物園』

9月『空き缶でオカリナをつくろう』

時間 午前の部 10:30~12:00

午後の部 14:00~15:30

[サンデーサイエンス・わくわくディスカバリー受付]

受付 開始時間の1時間前から、スタジルーム前で受け付けます。
希望者多数の場合は抽選を行います。

えいが会(定員:300名)

[3階映像ホール]

7月22日(日)『プリンス・オブ・エジプト』

8月19日(日)『イーハトーブの赤い屋根』

9月16日(日)『赤毛のアン』

上映時間 14:00~

入場無料(当日9:30~整理券配布)

その他のイベント

・海の日特別イベント

7月20日(金)(当日受付)

・理科自由研究のヒントを見つけよう

7月21日(土) 10:30~11:30

定員300名

小学校高学年・中学生対象

*事前に電話でお申し込みください。

●小・中・高校生無料入館

7月

日月火水木金土

1 2 3 4 5 6 7

8 9 10 11 12 13 14

15 16 17 18 19 20 21

22 23 24 25 26 27 28

29 30 31

休館日

8月

日月火水木金土

1 2 3 4

5 6 7 8 9 10 11

12 13 14 15 16 17 18

19 20 21 22 23 24 25

26 27 28 29 30 31

9月

日月火水木金土

1

2 3 4 5 6 7 8

9 10 11 12 13 14 15

16 17 18 19 20 21 22

23 24 25 26 27 28 29

ご利用案内

[入館料]

区分	本館・野外施設		野外施設のみ
	企画展開催時	通常時	
大人	720円(580円)	520円(420円)	200円(100円)
高校・大学生	440円(300円)	320円(200円)	100円(50円)
小・中学生	140円(70円)	100円(50円)	50円(30円)

(注) : () 内は団体料金(20人以上)

未就学児・6歳以上の方・障害者手帳をお持ちの方は入館無料です。

つぎの日の入館料は無料です。(▲印は高校生以下)

●4月29日(みどりの日) ●6月5日(環境の日)

●11月13日(茨城県民の日) ●春分の日

▲高校生以下の児童・生徒は、毎月第2・第4土曜日は入館無料です。(但し、春・夏・冬休み期間中を除く)

[休館日]

●毎週月曜日(但し、9月24日(月)は開館し、翌日休館となります)

●12月28日~1月1日

今年は博物館の中で「里山」に触れてみませんか。

身近な自然について新しい発見があるかも?!

(T.K.)

[編集後記]

「里山=なんとなく懐かしい場所」という漠然としたイメージしかもっていなかつた私でしたが、今回スタッフの一員と

して「SATOHAMA展」に関わり、それだけではすまされない「里山」の新しい魅力にすっかりひきこまれてしまいました。

今から夏休みの計画を立てる皆さん、

自然博物館ニュース A·MUSEUM (ア・ミュージアム)

企画・編集: ミュージアムパーク茨城県自然博物館企画課 / 発行2001年6月25日

〒306-0622 茨城県岩井市大崎700番地 TEL0297-38-2000

ホームページ <http://www.nat.pref.ibaraki.jp/>

E-mail webmaster@nat.pref.ibaraki.jp